

京都市 21 世紀産業振興ビジョン策定委員会

第 3 回会議（概要）

日 時	平成 13 年 11 月 7 日(水)午前 10 時から正午まで
場 所	京都ホテル 3 階「金剛の間」
出 席 者	吉田和男委員長，宗田好史副委員長，筋祥子委員，柿野欽吾委員， 堀場雅夫委員，吉田忠嗣委員，高木壽一委員，西口光博委員
次 第	開会 ビジョンの視点等について ○ 事務局から資料説明 ・ 「京都市 21 世紀産業振興ビジョンの主な視点について」 意見交換（主な意見） ・ 京都には世界的レベルの技術（ＩＴ，ナノテクノロジー，環境，ライフサイエンスなど）があることから，これらを活かし，先端技術と伝統技術が融合した形で新しい産業が生まれる都市，「スーパーテクノシティ」を目指してはどうか。 ・ ハイブリッド，すなわち雑種の強さを発揮できる都市が「スーパーテクノシティ」である。常に京都から新しい提案ができるようになればよい。 ・ 京都らしい仕組みとして，国の制度とも連動した産学公連携や高齢者が参加できる仕組みづくりを考える必要がある。 ・ 大学側から産業側へのアプローチが少ない。大学の研究者が，産業界の役に立つ研究をしようという意識をもって研究しないと産学連携は難しい。 ・ 産学連携の場を作っていくことが重要である。官が仲介をする仕組みを作れば産学連携が進むのではないか。 ・ 既に集積が図られている京都リサーチパーク地区，新たな集積が図られようとしている京都大学桂キャンパス地区，21 世紀の活力を担う高度集積地区の 3 つの地域での展開が必要である。 ・ 伝統産業の分野で工房を公開する動きがあるが，このように技術を公開し，市民，消費者がどのようなものを求めているのか知ること重要である。 ・ 伝統産業が現代に残るためには革新や改革が必要である。 ・ 魅力ある企業が多くあるか，自分で開業できるようになれば，京都市の人口，人材の流出が防げる。